

## 第45回日本口腔インプラント学会学術大会開催の挨拶

—美しい学都・岡山大で皆様をお待ちしております—

第45回日本口腔インプラント学会学術大会 大会長  
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科  
インプラント再生補綴学分野 教授  
窪木拓男

第45回学術大会を、岡山大学大学院医歯薬学総合研究科インプラント再生補綴学分野が、担当させていただくことになりました。岡山での開催にあたり、多数の関係者にご尽力を賜りました事、厚く御礼申し上げます。9月21日(月)は、岡山シンフォニーホールを中心に倫理委員会セミナー、専門医教育講座を開催致します。9月22日(火)、23日(水)は、駅周辺のホテルやコンベンションセンターをコンプレックスとして、特別講演、シンポジウム、一般口演、ポスター発表、企業展示等を開催致します。同時進行の企画が多数となることから、今回は今までにない学術大会支援電子ツールを準備しております。また、シンガポールから世界屈指の臨床家と言われている Dr. Wong にお越し頂くなど、大変魅力あるプログラムが組まれております。

さて、本邦は超高齢社会を迎え、口腔機能の向上は国民の生活の質に直結する大きな目標と考えられています。このような中で高齢者の「食」を基盤とした健康増進、介護予防、虚弱予防は、目下の大きな課題となっています。口腔インプラントは、このような超高齢社会において、適切かつ効果的に利用されれば、大きな武器たり得ると考えられます。本大会のテーマに、健康維持と口腔インプラント治療—口腔インプラント治療のメリットを再考する—と掲げたのはこの様な理由からです。更に言うと、口腔インプラントという治療オプションがあることが当たり前になった昨今、改めて口腔インプラントがもたらした歯科治療におけるメリット(残存歯の保護効果、複雑な補綴装置の回避、口腔関連QOLの向上、治療の高い永続性等)を再評価する必要があると思っております。一方で、不適切な使用や無責任な対応は患者に害を与える可能性も指摘されています。特に、超高齢社会における口腔インプラントのあり方は、これまでの外来患者を中心とした歯科治療の知識では対応できないより包括的な医療を内包するものになると考えられます。本大会を通じて、口腔インプラントの最新のイノベーションを先生方と共有するとともに、超高齢社会における問題点や対応策も議論した

いと考えております。ぜひ、多数の方にご参集頂き、原点に立ち返って口腔インプラントのあり方を考えてみたいと思います。

岡山は、中国四国地区の交通の要所に位置し、山の幸、海の幸に恵まれております。また、三大名園の一つである後楽園を擁しており、竹久夢二の生家等、多くの観光地に恵まれております。近隣には倉敷という大変人気のある国際観光都市も控えております。このような美しい学都・岡山中で、学術活動は基より、素晴らしい秋の季節を満喫して頂きたいと思っております。

この度、事前参加登録の締め切り日も8月17日の正午までと延長いたしました。近隣の宿泊ホテルにも未だ空きがございます。会員の皆様には、是非とも多くのご参加を賜りますよう、切にお願い申し上げます。